

2021年12月期 第1四半期

決算説明資料

2021年 5月

目次

1. 2021年12月期 連結業績予想の修正
2. 2021年12月期第1四半期 連結決算概要
3. 2021年12月期第1四半期 セグメント別業績
4. 2021年12月期 修正連結業績に対する進捗率



免責事項および注意事項

- 本資料に記載された将来情報などは資料作成時点での当社の認識、意見、判断又は予測であり、その実現を保証するものではありません。様々な要因により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
- 説明会および本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社又は子会社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。
- セグメント収益は、セグメント間の内部営業収益又は振替高を含んだ営業収益を表示しております。
- 業績予想以外の円換算の為替レートは、以下の2021年3月末レートで換算しております。

1 シンガポールドル : 82.27円	1 インドネシアルピア : 0.0077円	1 モンゴルトゥグルグ : 0.0389円
1 韓国ウォン : 0.0978円	1 USD : 110.71円	
- JTキャピタルの全株式は2021年6月15日までに売却する予定です。しかし、2021年12月期第1四半期および前年同期の数値において継続事業として扱っております。
- JT貯蓄銀行は2020年12月期第4四半期に非継続事業としました。しかし、2021年12月期第1四半期および前年同期の実績、さらに2021年通期業績予想において継続事業として扱っております。

1. 2021年12月期 連結業績予想の修正

2021年12月期業績の期初予想と修正予想の前提条件

投資事業において訴訟回収金24.2百万米ドルを追加計上

期初予想においてはシンガポール控訴裁判所判決の一部履行として37百万米ドルを計上することを想定

⇒修正予想においては2021年4月7日に受領した17百万米ドルおよび4月29日に受領した7.2百万米ドルを追加計上

※詳細は2021年1月12日付、4月7日付、4月30日付当社適時開示『（開示事項の経過）当社のGroup Lease PCLに対する現状の認識について』を参照ください。

JTキャピタルについての取り扱い

期初予想においては継続事業と想定

⇒修正予想においては非継続事業（※）

※2021年6月15日までに株式売却を完了する予定です。

JT貯蓄銀行についての取り扱い

期初予想においては1Qに売却を計画していたことから非継続事業と想定

⇒修正予想においては継続事業（※）

※2021年4月5日にJT貯蓄銀行の株式売却に関する基本合意書を締結したものの、継続事業としております。

1Qの日本金融事業および東南アジア金融事業の上振れは修正予想に未反映

- 1Qにおいて日本金融事業および東南アジア金融事業の営業損益は計画を上回って推移
- 未だ1Qの段階であり、今期3Qを残している状況等を踏まえ、これらの上振れ分については修正予想に反映せず

2021年12月期連結業績予想

➤ 営業収益および営業利益以下の各利益予想を大幅な増額修正

	FY12/2021 期初予想	FY12/2021 修正後予想	FY12/2021 修正幅（※）
営業収益	326億円	421億円	+ 95億円
営業利益	1億円	55億円	+ 54億円
税引前利益	23億円	82億円	+ 59億円
親会社の所有者に 帰属する当期利益	5億円	20億円	+ 15億円

（※）億円未満を切り捨て表示した数値（期初予想と修正後予想）の差額を億円単位で計算しております。

2021年12月期セグメント別営業収益予想

- 韓国及びモンゴル金融事業においてJTキャピタルを非継続事業としたものの、JT貯蓄銀行を継続事業としたことが増額修正の要因

	FY12/2021 期初予想	FY12/2021 修正後予想	修正幅 (※1)
日本金融事業	83億円	83億円	—
韓国及び モンゴル金融事業	42億円	136億円	94億円
東南アジア金融事業	189億円	189億円	—
投資事業	6億円	6億円	—
その他	5億円	5億円	—
連結営業収益 (※2)	326億円	421億円	95億円

(※1) 億円未満を切り捨て表示した数値（期初予想と修正後予想）の差額を億円単位で計算しております。

(※2) 連結営業収益は連結調整後の数値となります。

2021年12月期セグメント別営業利益予想

- 営業利益予想においてはJT貯蓄銀行を継続事業としたことと投資事業において勝訴判決にかかる履行金を一部追加受領したことが増額修正の要因
- 日本金融事業および東南アジア金融事業の1Q営業利益は計画を上回っているが、業績予想には未反映

	FY12/2021 期初予想	FY12/2021 修正後予想	修正幅 (※1)
日本金融事業	36億円	36億円	—
韓国及び モンゴル金融事業	-3億円	26億円	+29億円
東南アジア金融事業	-43億円	-43億円	—
投資事業	26億円	53億円	+27億円
その他	-2億円	-2億円	—
連結営業利益 (※2)	1億円	55億円	54億円

(※1) 億円未満を切り捨て表示した数値（期初予想と修正後予想）の差額を億円単位で計算しております。

(※2) 連結営業利益は連結調整後の数値となります。

2. 2021年12月期第1四半期 連結決算概要

1Q連結業績概要

日本金融事業

**保証業務および債権回収業務が引き続き好調で
営業収益、営業利益ともに計画を上回って推移**

韓国及びモンゴル金融事業

JTキャピタル、JT貯蓄銀行ともに継続事業として取り扱い

※2021年12月期第2四半期決算以降、JTキャピタルは非継続事業に組み替え予定です。

東南アジア金融事業

**インドネシアの改善基調にカンボジアの利益貢献が加わり、
営業損益は計画を上回って推移**

連結業績

- 営業収益は前年同期比横ばい
- 訴訟回収金の計上もあり利益項目は前年同期比大幅増益

	1Q FY12/2020 (2020/1/1~2020/3/31)	1Q FY12/2021 (2021/1/1~2021/3/31)	差異 (※)
営業収益	110億円	108億円	-2億円
営業利益	3億円	44億円	41億円
税引前利益	2億円	62億円	60億円
親会社の所有者に 帰属する当期利益	15億円	28億円	13億円

(※) 億円未満を切り捨て表示した数値（期初予想と修正後予想）の差額を億円単位で計算しております。

セグメント別営業収益

	1Q FY12/2020 (2020/1/1~2020/3/31)	1Q FY12/2021 (2021/1/1~2021/3/31)	差異 (※1)
日本金融事業	22億円	21億円	-1億円
韓国及び モンゴル金融事業	43億円	46億円	3億円
東南アジア金融事業	41億円	38億円	-3億円
投資事業	2億円	1億円	-1億円
その他	1億円	1億円	0億円
連結営業収益 (※2)	110億円	108億円	-2億円

(※1) 億円未満を切り捨て表示した数値の差額を億円単位で計算しております。

(※2) 連結営業収益は連結調整後の数値となります。

セグメント別営業損益

	1Q FY12/2020 (2020/1/1~2020/3/31)	1Q FY12/2021 (2021/1/1~2021/3/31)	差異 (※1)
日本金融事業	11億円	11億円	0億円
韓国及び モンゴル金融事業	7億円	11億円	4億円
東南アジア金融事業	-12億円	-5億円	7億円
投資事業	-4億円	30億円	34億円
その他	-1億円	0億円	1億円
連結営業利益 (※2)	3億円	44億円	41億円

(※1) 億円未満を切り捨て表示した数値の差額を億円単位で計算しております。

(※2) 連結営業利益は連結調整後の数値となります。

3. 2021年12月期第1四半期 セグメント別業績

3-1. 日本金融事業

日本金融事業の営業収益と営業利益

- 主力の保証業務、債権回収業務ともに引き続き順調
- 営業収益、営業利益ともに安定推移

営業収益

22

21

1Q FY12/2020

1Q FY12/2021

営業利益

11

11

1Q FY12/2020

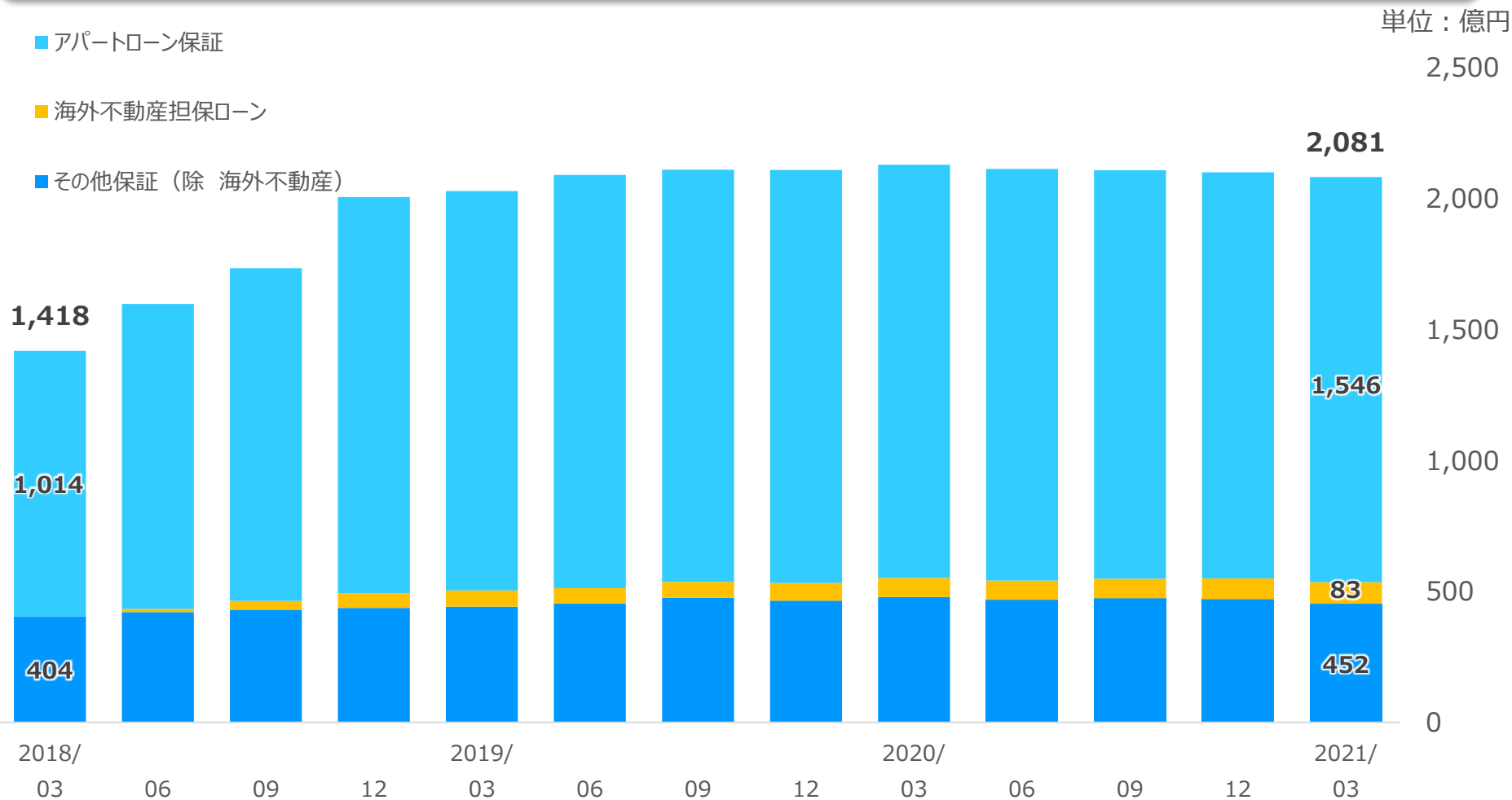
1Q FY12/2021

単位：億円

※日本金融事業の営業収益、営業利益については前年同期実績からJトラストカードの実績を差し引いて表示しております。

日本金融事業の保証残高の推移

- アパートローンなど金融機関向けのローンの保証残高は引き続き安定した推移
- 中古アパートローン保証やクラウドファンディング保証などへの多角化が保証残高を下支え



アパートローン保証

2020年11月から開始した中古アパートローンの保証残高は10億円を突破

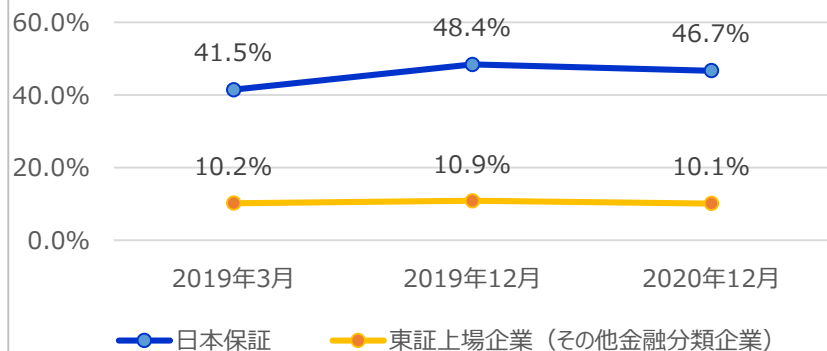
クラウドファンディング保証

1月～3月の実行額は4億円超となり、3月末の保証残高は12億円強へ

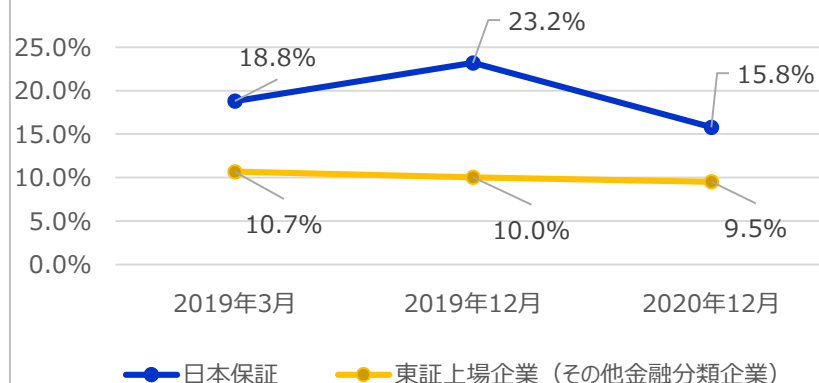
(ご参考) 日本保証はグループの持続的成長を支える強固な収益基盤

- 日本保証の特長は利益率の高いビジネスモデルであり、2020年12月期の売上高営業利益率は46.7%
- また、資本・資産を効率的に活用しており、ROEとROAは東証上場の同業種より高水準

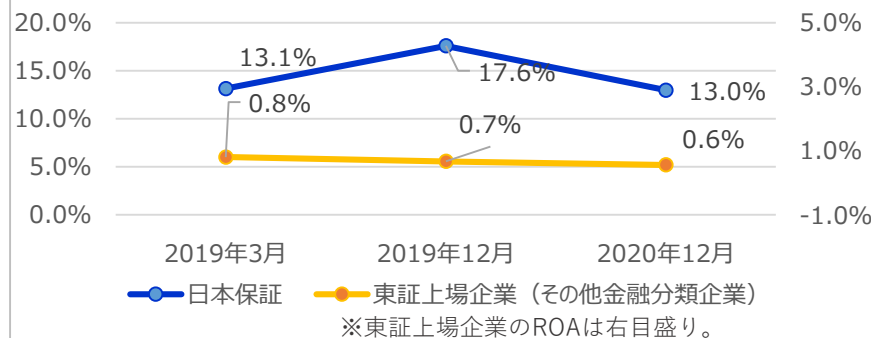
売上高営業利益率



ROE



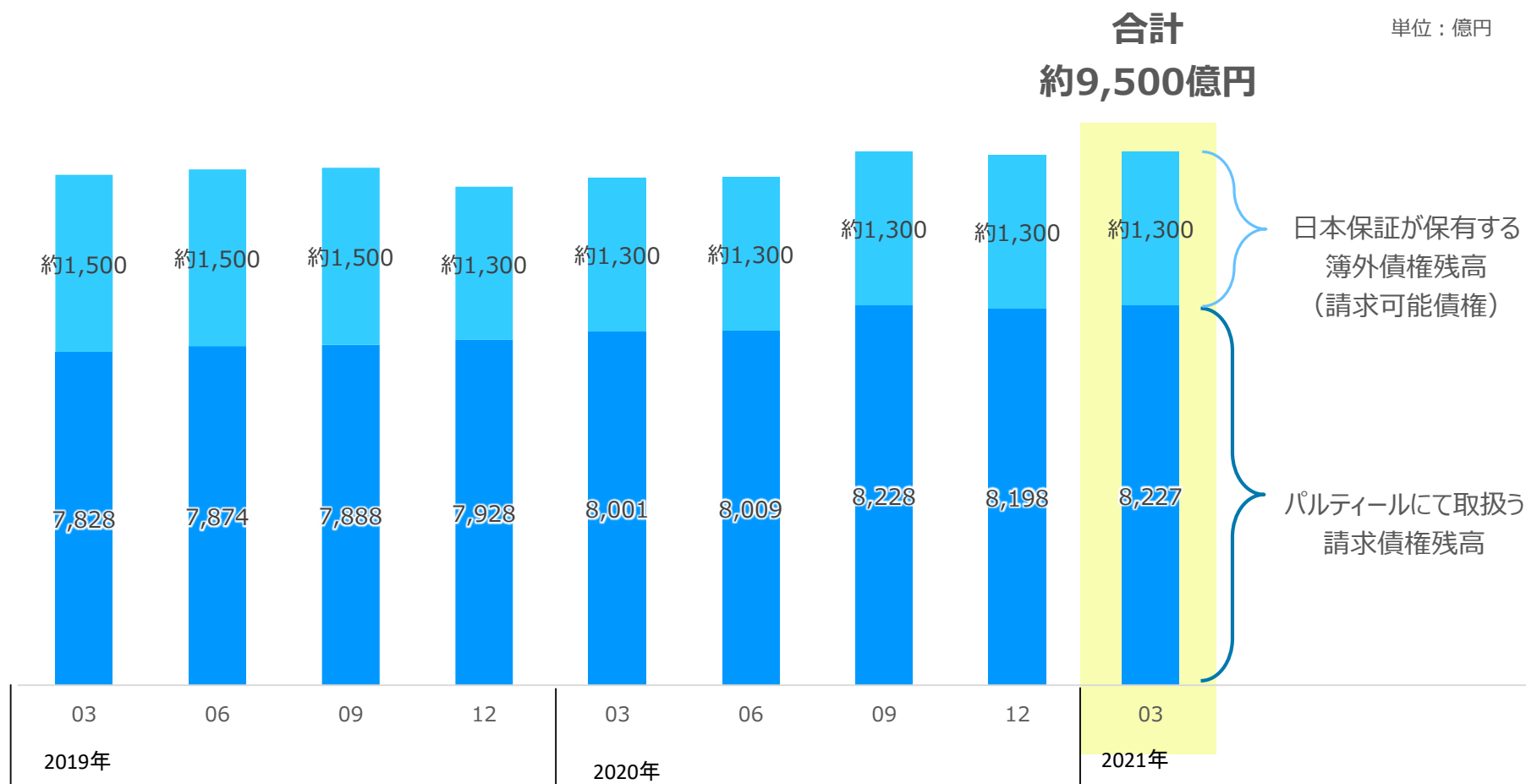
ROA



- ※1 日本保証の財務指標は、すべて日本基準での数値を使用。
- ※2 東証上場企業については、一部・二部・マザーズ・ジャスダックに上場している、「その他金融」に分類される業種の企業の平均値。
日本取引所グループ（JPX）のHP上の統計データより。
- ※3 日本保証の業績は2019年3月期・2019年12月期・2020年12月期決算の数値。東証上場企業の業績平均値については、2018年3月期・2019年3月期・2020年3月期決算の数値。
- ※4 日本保証の2019年12月期については、決算月変更による9ヵ月の変則決算。

サービス事業における請求債権残高

- 大手カード会社からの四半期ごとの定期購入に加えて、クレジット会社からのスポット購入などから、好調な債権回収にかかわらず請求債権残高は前期末比で増加



請求債権残高は買取債権および回収受託債権を含む

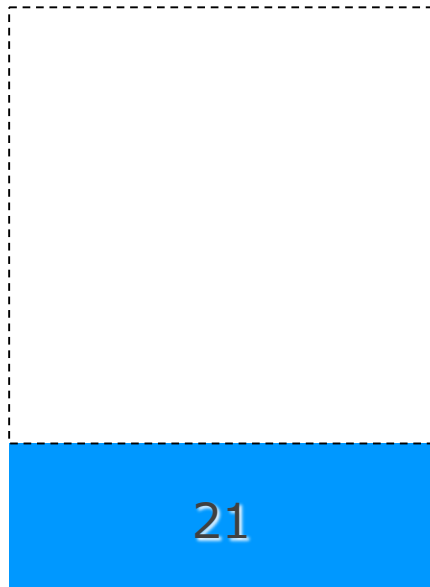
日本金融事業における1Q進捗率

➤ 通期計画に対する1Q進捗率は営業収益が26% 営業利益は32%

営業収益

通期計画 83
実績値 21

単位：億円



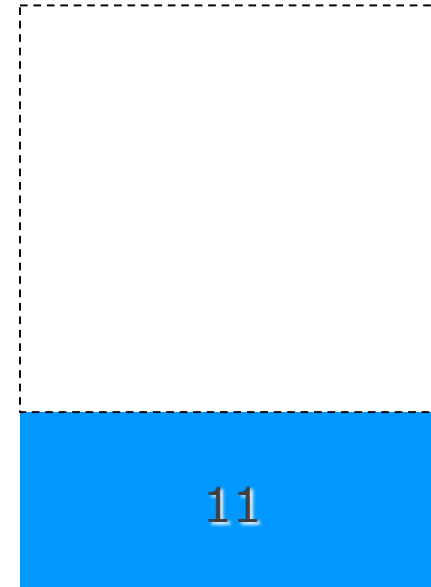
進捗率
26%

1Q FY12/2021

営業利益

通期計画 36
実績値 11

単位：億円



進捗率
32%

1Q FY12/2021

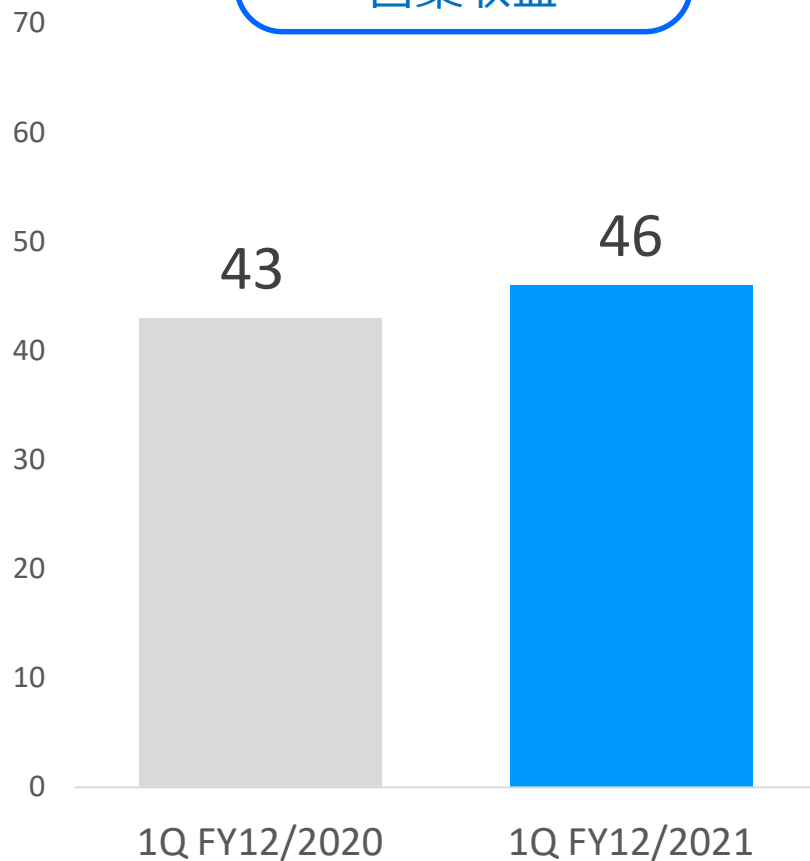
3. 2021年12月期第1四半期 セグメント別業績

3－2. 韓国及びモンゴル金融事業

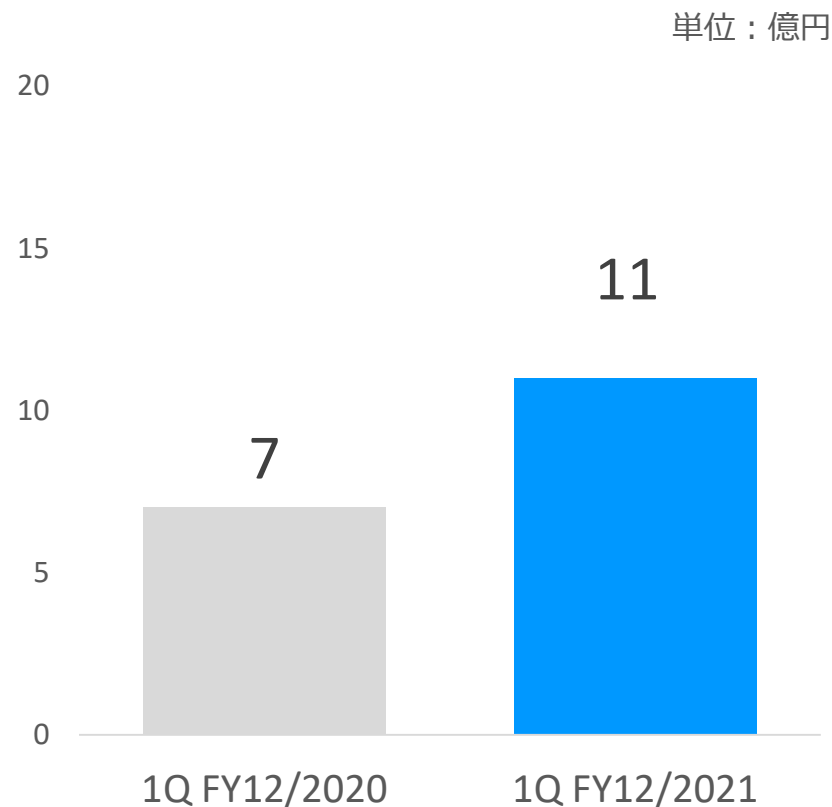
韓国及びモンゴル金融事業の営業収益と営業利益

➤ JT貯蓄銀行の貸出残高の増加などを受けて前年同期比増収、営業増益

営業収益



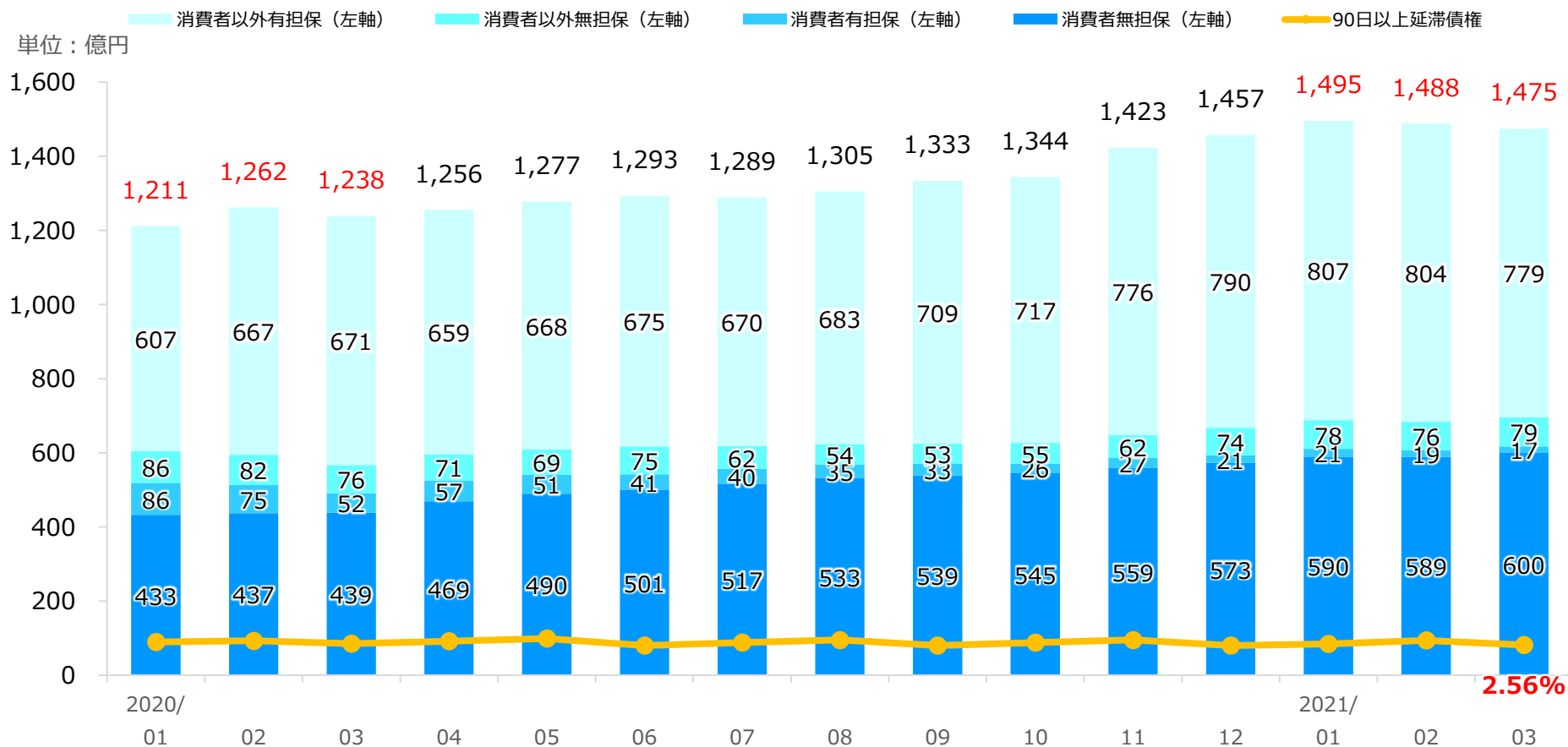
営業利益



単位：億円

JT貯蓄銀行の貸出資産ポートフォリオと90日以上延滞債権比率の推移

➤ JT貯蓄銀行の貸出は消費者以外有担保と消費者無担保が好調で2021年1月～3月は前年同期比増加



※数値は現地通貨に3月末レートを乗じ表示

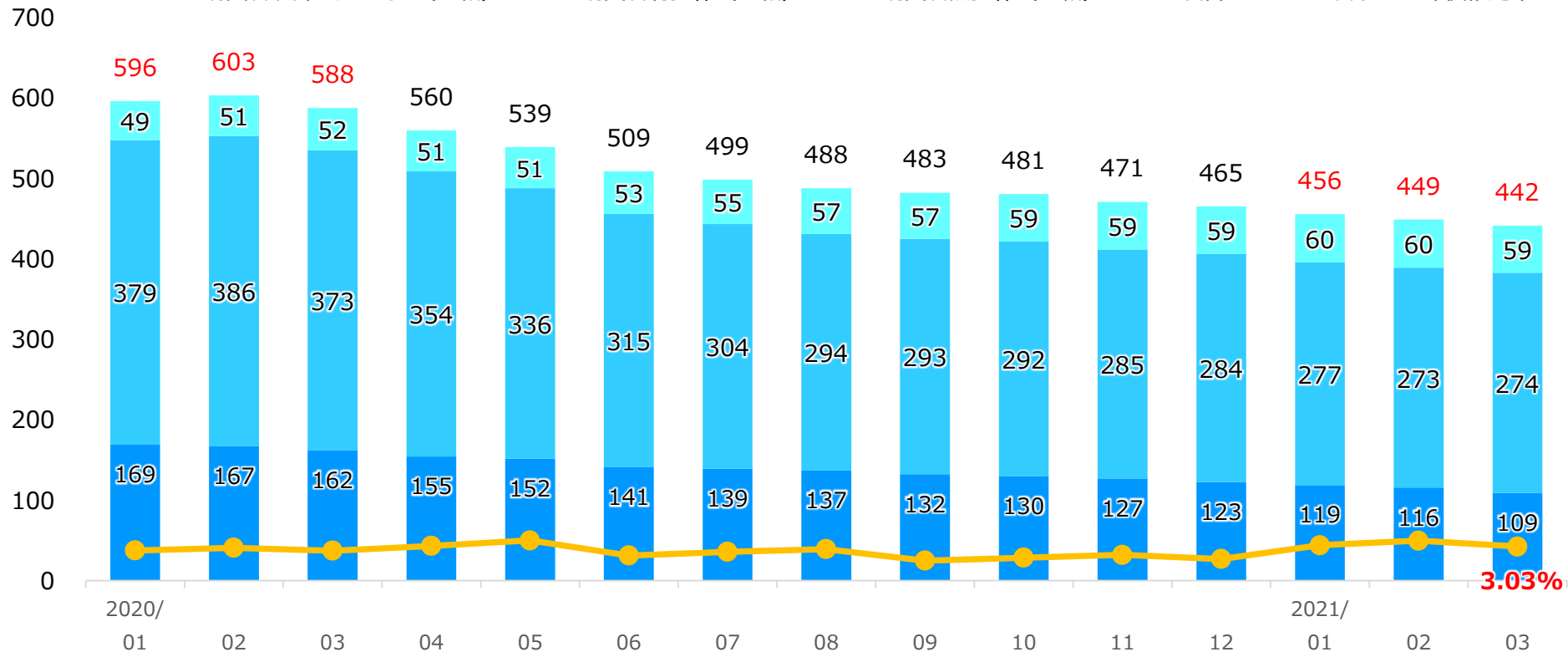
※残高は現地会計基準

JTキャピタルの貸付資産ポートフォリオと90日以上延滞債権比率の推移

➤ JTキャピタルの貸付資産は減少傾向を辿っており、2021年1月～3月は前年同期比減少

単位：億円

消費者以外のリースなど（左軸） 消費者有担保（左軸） 消費者無担保（左軸） 合計 90日以上延滞債権比率



※数値は現地通貨に2021年3月末レートを乗じ表示

※残高は現地会計基準

韓国及びモンゴル金融事業における1Q進捗率

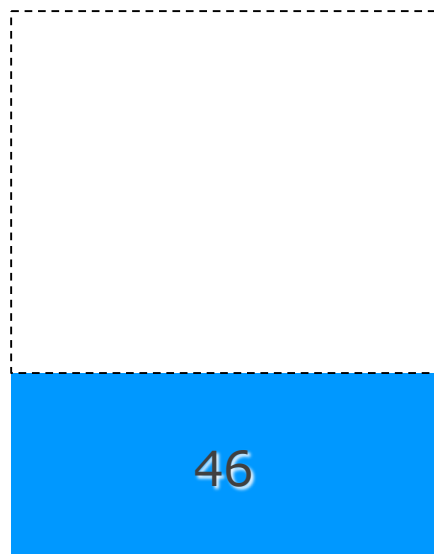
➤ 通期計画に対する1Q進捗率は営業収益が34%、営業利益は44%

営業収益

通期計画 136

実績値 46

単位：億円



進捗率
34%

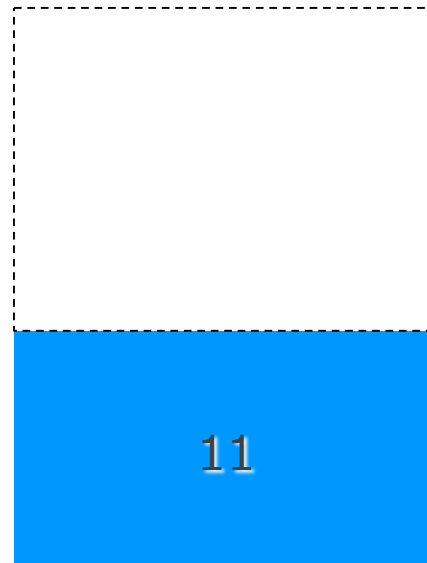
1Q FY12/2021

営業利益

通期計画 26

実績値 11

単位：億円



進捗率
44%

1Q FY12/2021

3. 2021年12月期第1四半期 セグメント別業績

3－3. 東南アジア金融事業

以下のページでは、社名を省略して記載しています。

- ・Jトラスト銀行インドネシア（BJI）
- ・Jトラストオリンピンドマルチファイナンス（JTO）
- ・Jトラストインベストメンツインドネシア（JTII）
- ・TA資産管理株式会社（TAA）
- ・Jトラストロイヤル銀行（JTRB）

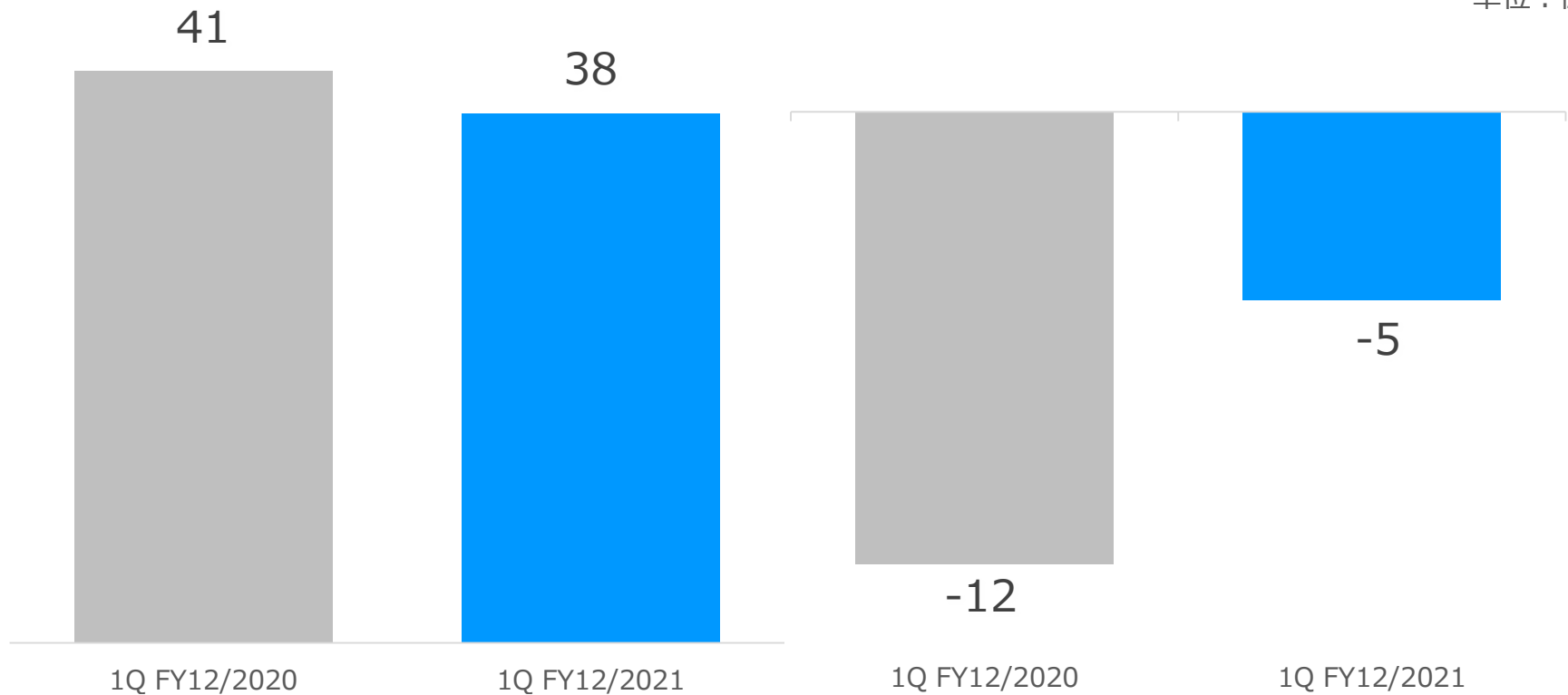
東南アジア金融事業の営業収益と営業損益

- JTRBが預金獲得強化を背景に貸出残高を順調に積み増し、営業損益を下支え
- インドネシア金融事業ではBJIとJTIIの営業損益が計画を上回ったほか、訴訟損失引当金の戻りがあり、前年同期比で損失幅が縮小

営業収益

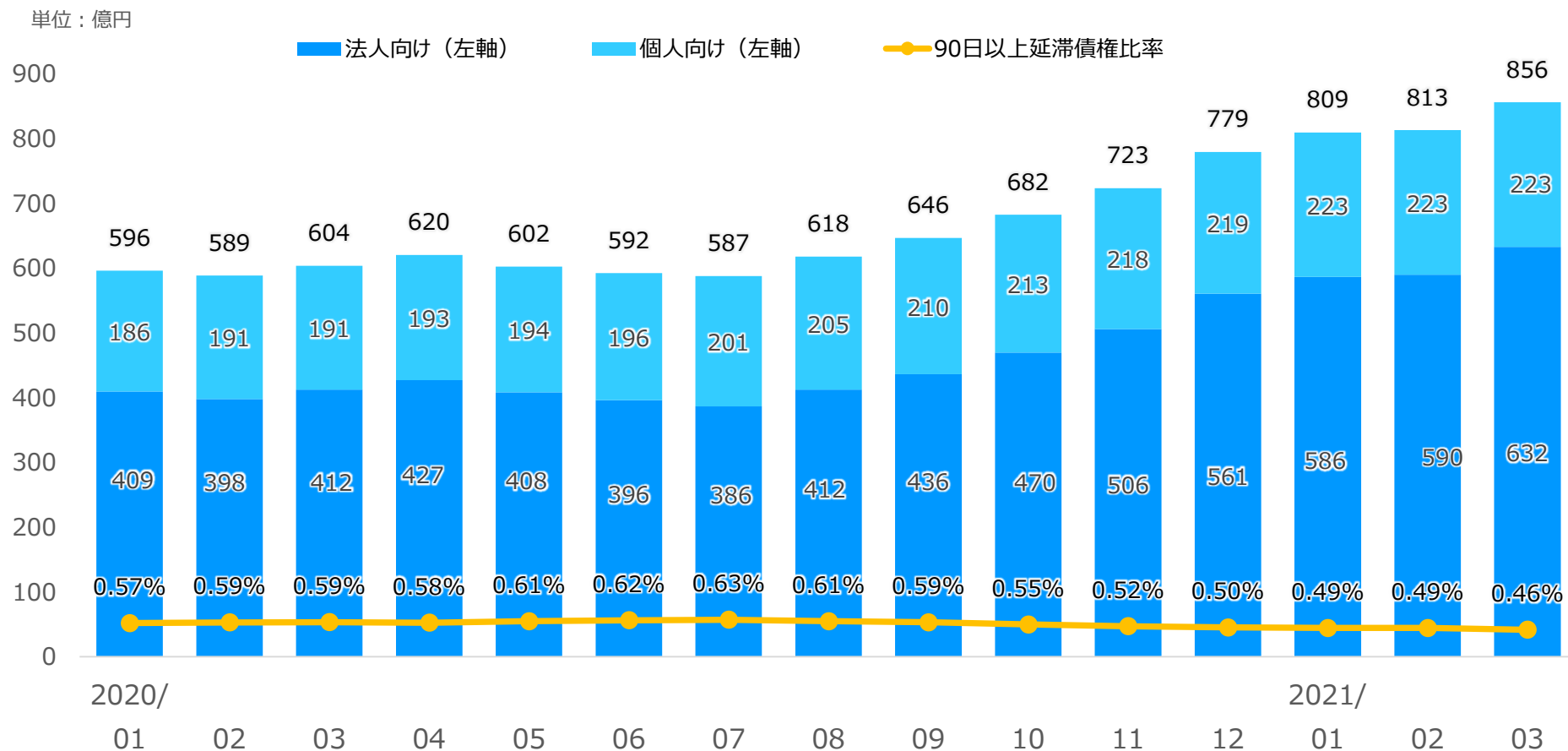
営業損益

単位：億円



JTRBの貸出資産残高と90日以上延滞債権比率の推移

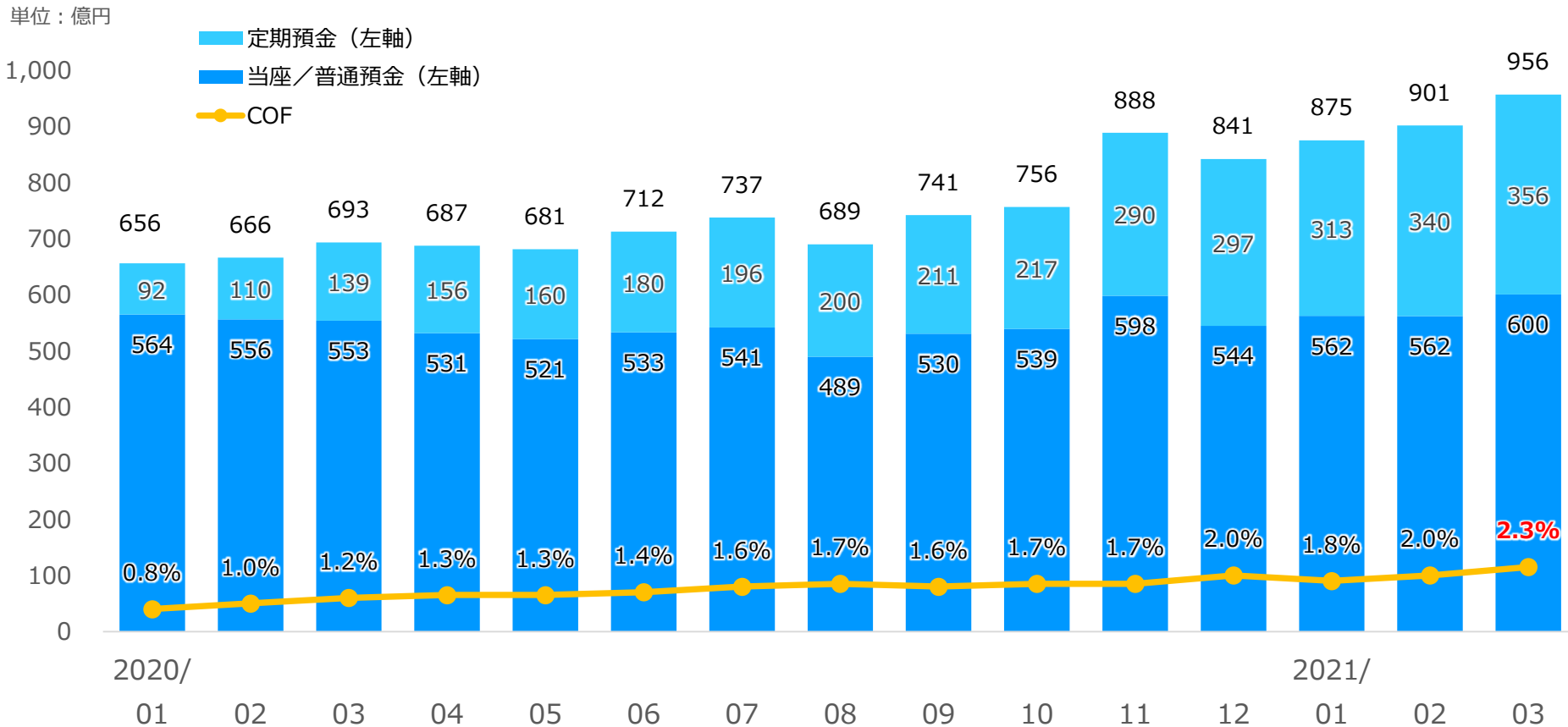
- 好調な預金獲得を背景に、堅調な法人資金需要に対応して貸出残高を積み増し
- 90日以上延滞債権比率は引き続き低位で安定



※数値は現地通貨（USドル）に2021年3月末レートを乗じて表示

JTRBの預金残高とCOFの推移

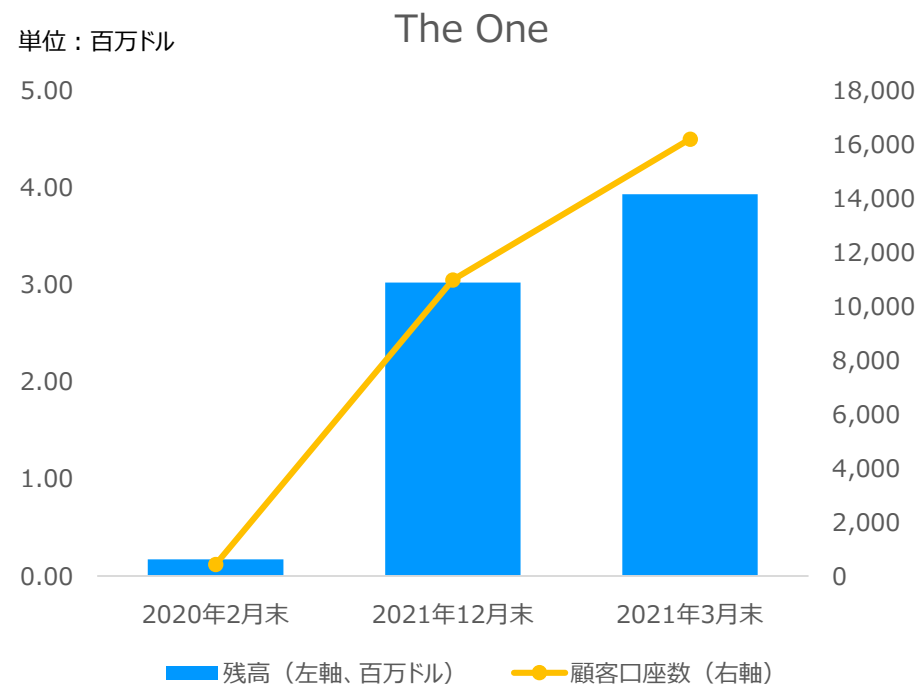
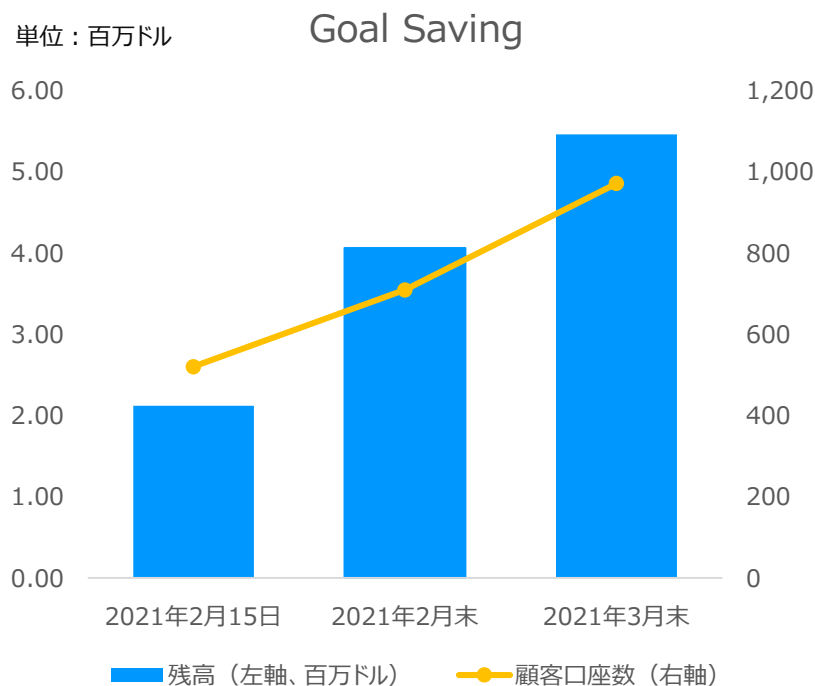
- 定期預金、当座／普通預金ともに残高は順調に拡大
- COFは預金獲得のため戦略的に上昇しているものの足元で2.3%と絶対水準としては低位



※数値は現地通貨（ＵＳドル）に3月末レートを乗じて表示

JTRBの低金利預金獲得のための各種施策 その1

- 預金新商品の「Goal Saving」や「The One」が好評で預金残高を押し上げ
- 特にGoal Savingは発売から1ヵ月半の短期間で約5.5百万ドルを集めるなど好調

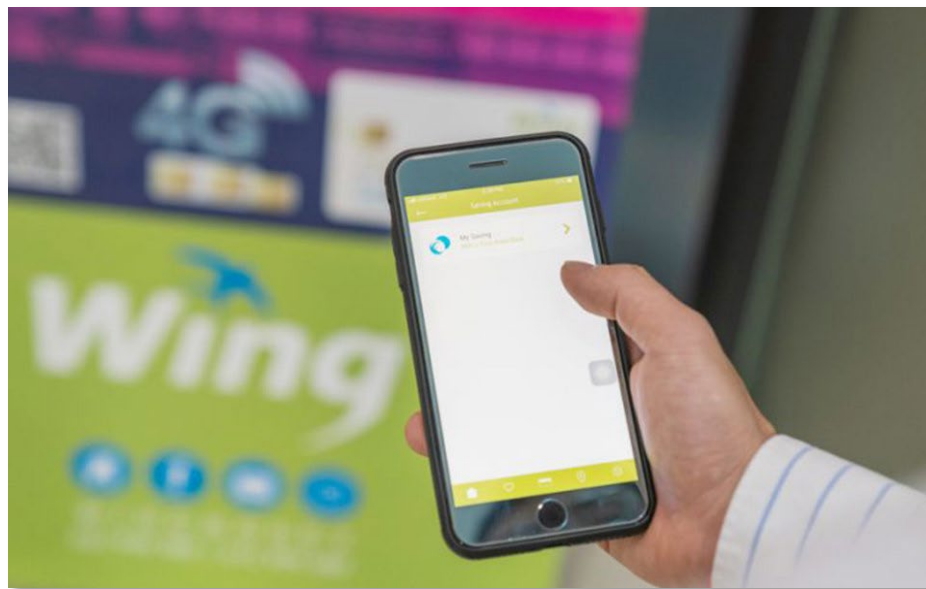


Goal Saving：普通預金の貯蓄専用口座。カード発行はしないが、金利は優遇した商品。

The One：2020年2月にリリースした普通預金。最低預金額を1ドルに下げ、従来の口座維持手数料等を撤廃した商品。

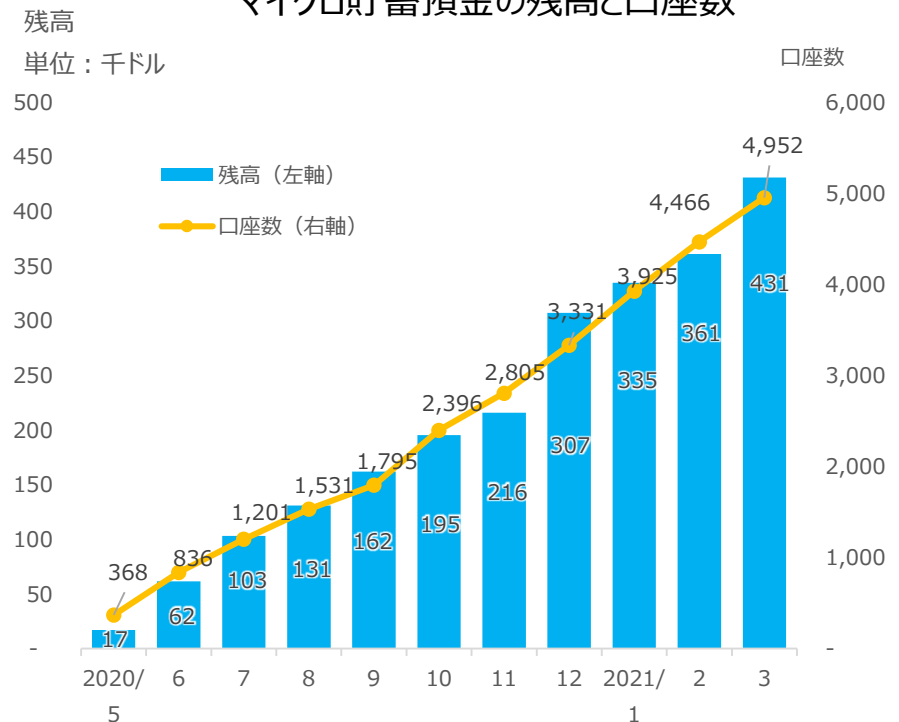
JTRBの低金利預金獲得のための各種施策 その2

- ▶ 銀行支店のない地方、農村、労働者、銀行口座開設ができないカンボジア人口80%の金融包摂を企図し、マイクロ貯蓄預金を開始
- ▶ カンボジア最大の電子マネー会社「Wing」社と提携し、同社送金顧客の小口資金を取り込むためマイクロ貯蓄預金を開始したところ、マイクロ貯蓄預金の残高、口座数ともに順調に増加

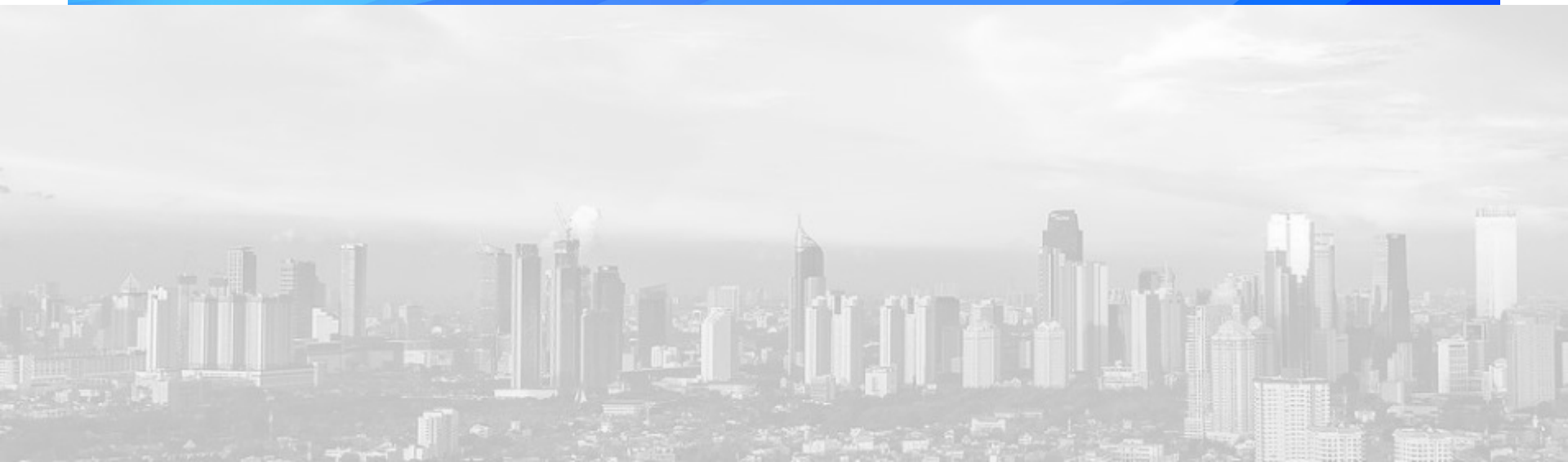


Wing社のスマホアプリの簡単な操作で取引可能

マイクロ貯蓄預金の残高と口座数



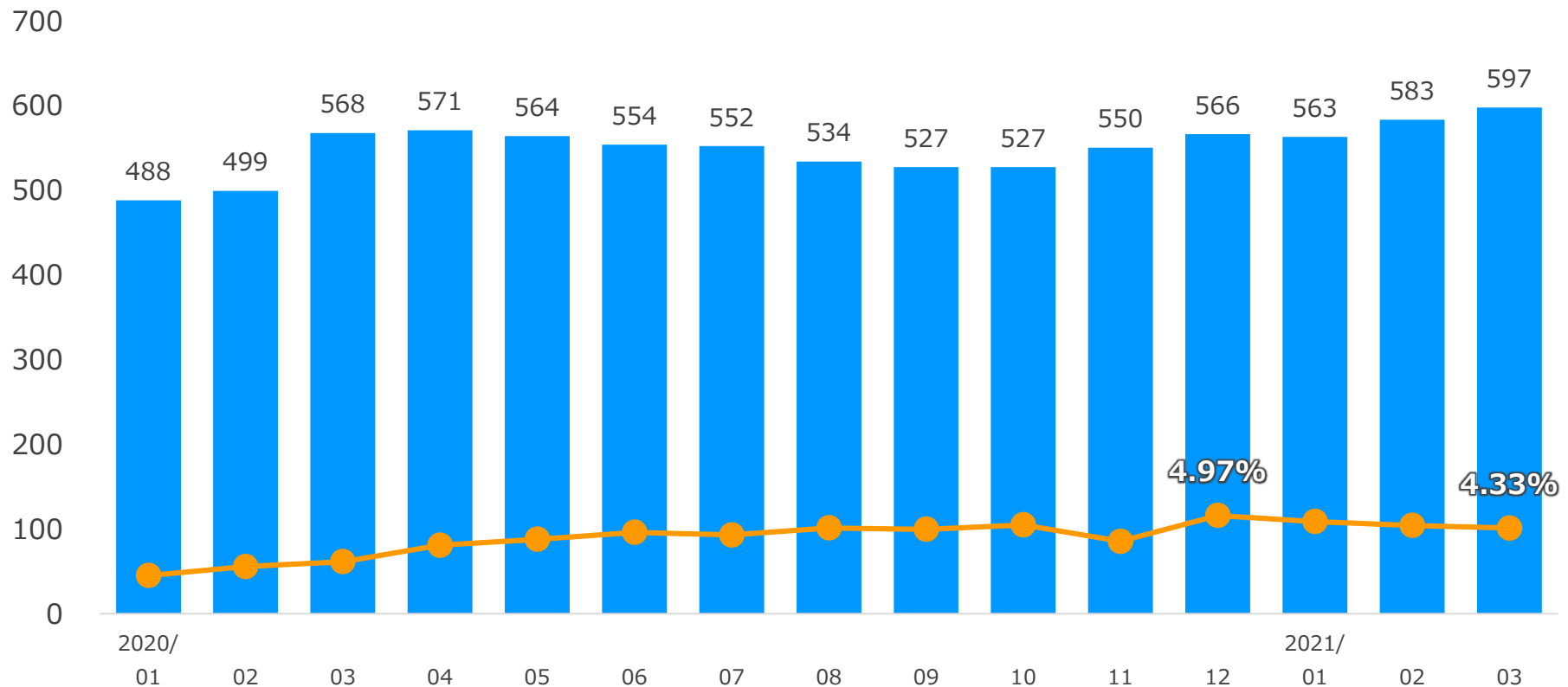
インドネシア事業 2021年12月期 1Q業績



BJI 貸出残高とNPL比率

- 貸出残高はリスクを抑制しながら、慎重な与信により徐々に積み上げを図る
- 2020年1月以降は、不良債権の売却など、特別な処置をせずとも、NPLを比較的低位でコントロール

単位：億円

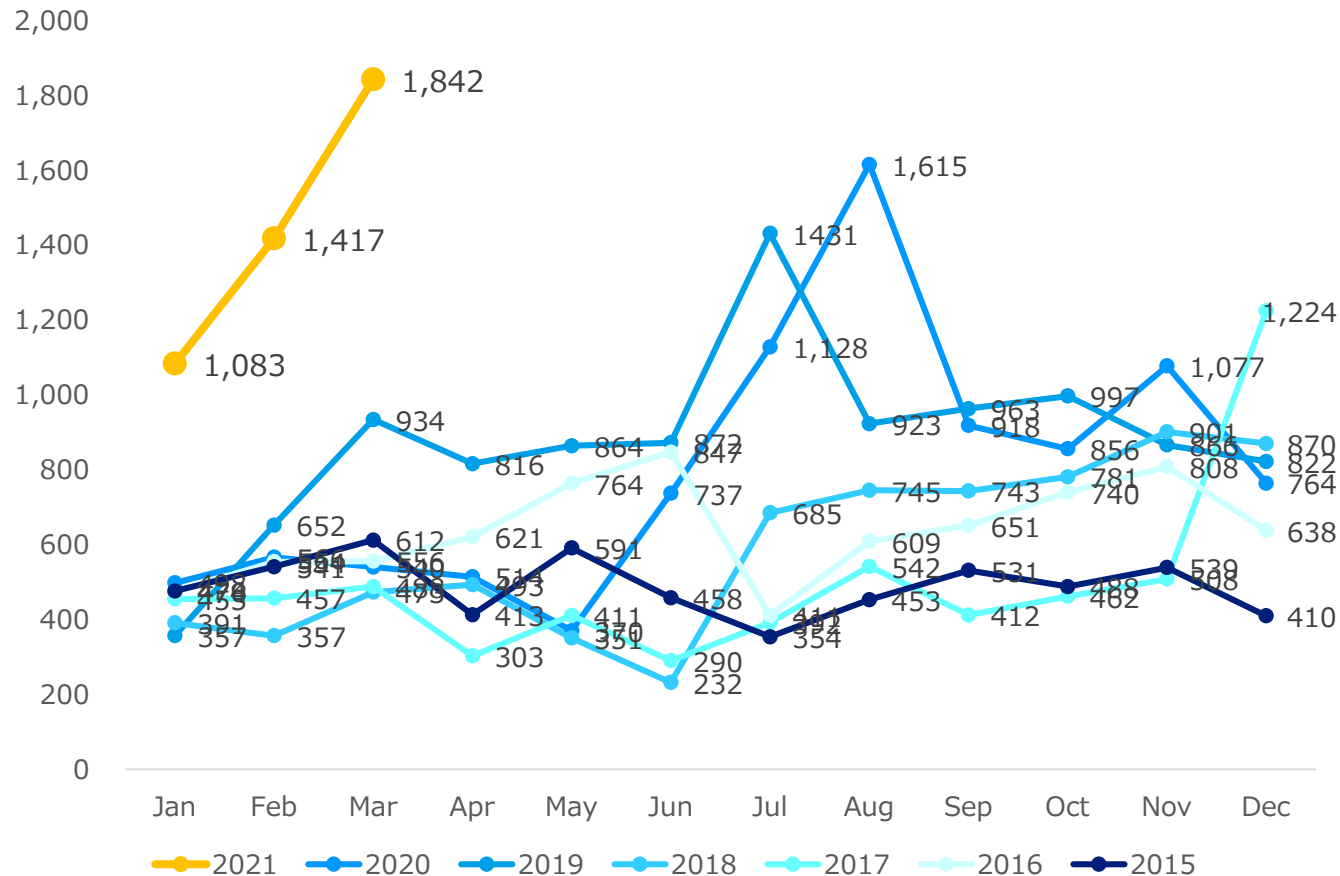


※数値は現地通貨に3月末レートを乗じて表示
参考レート：1 IDR = 0.0077円

BJI 新規預金口座獲得件数の推移

- パンデミックの経験から、大口預金顧客を抑制し、低利の小口預金顧客を集める戦略に変更
- 戦略実現のためにさまざまなマーケティングノウハウを導入した結果、例年の2～3倍のペースで預金口座を獲得

単位：件



BJIマスコットキャラクターを募集
入賞者はBJI預金口座より賞金を獲得



BJI関連の写真を撮影SNSに投稿し、数に応じて
報酬を支払う「Photo Competition」を開催
報酬はBJI預金口座より獲得

BJI 預金残高とCost of Fundsの推移

- COFは戦略通りに低下を続け、3月には5.96%とインドネシア進出以来の最低水準へ低下
- 預金量は、貸出資産に合わせ、日々コントロール

単位：億円

1,400

1,200

1,000

800

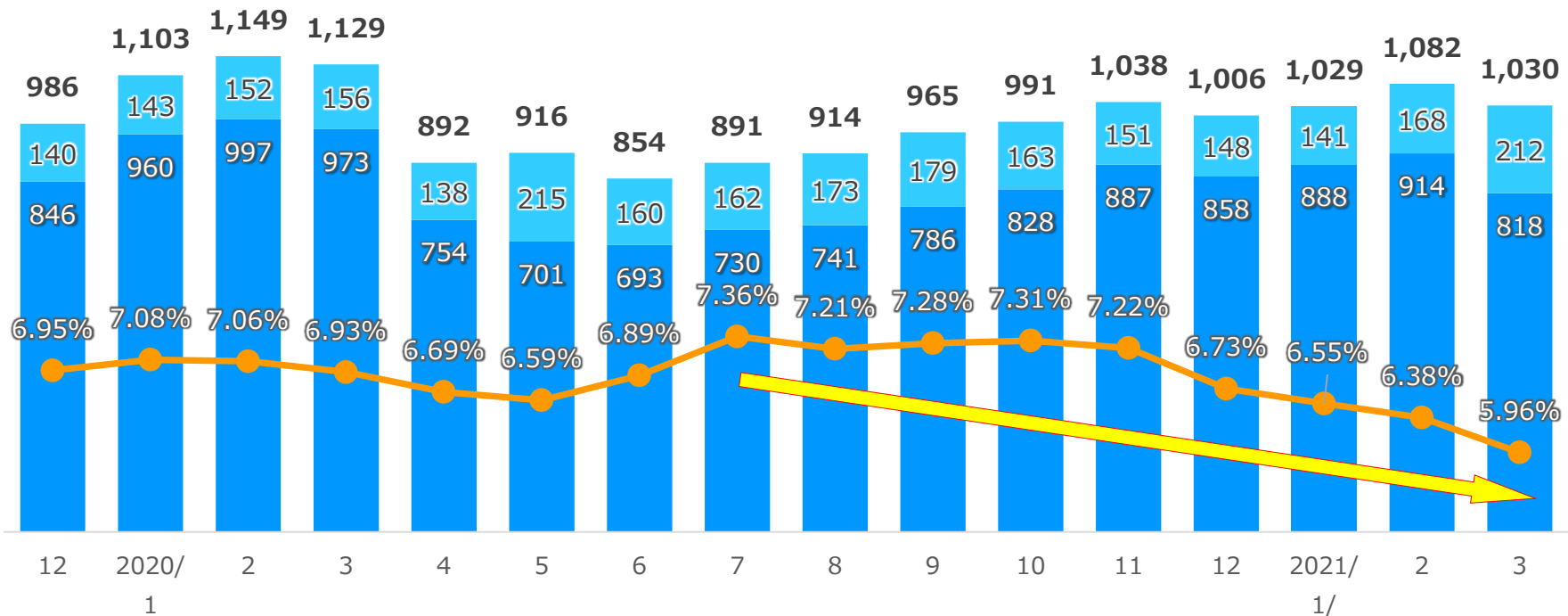
600

400

200

0

流動性預金
定期預金
COF



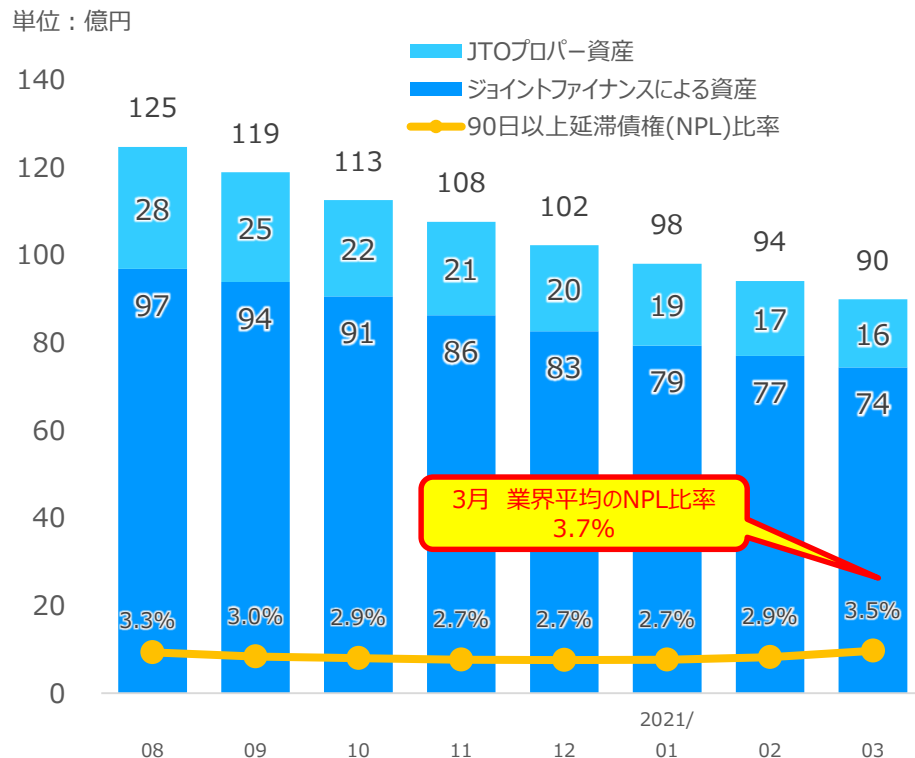
※数値は現地通貨に3月末レートを乗じて表示

参考レート：1 IDR = 0.0077円

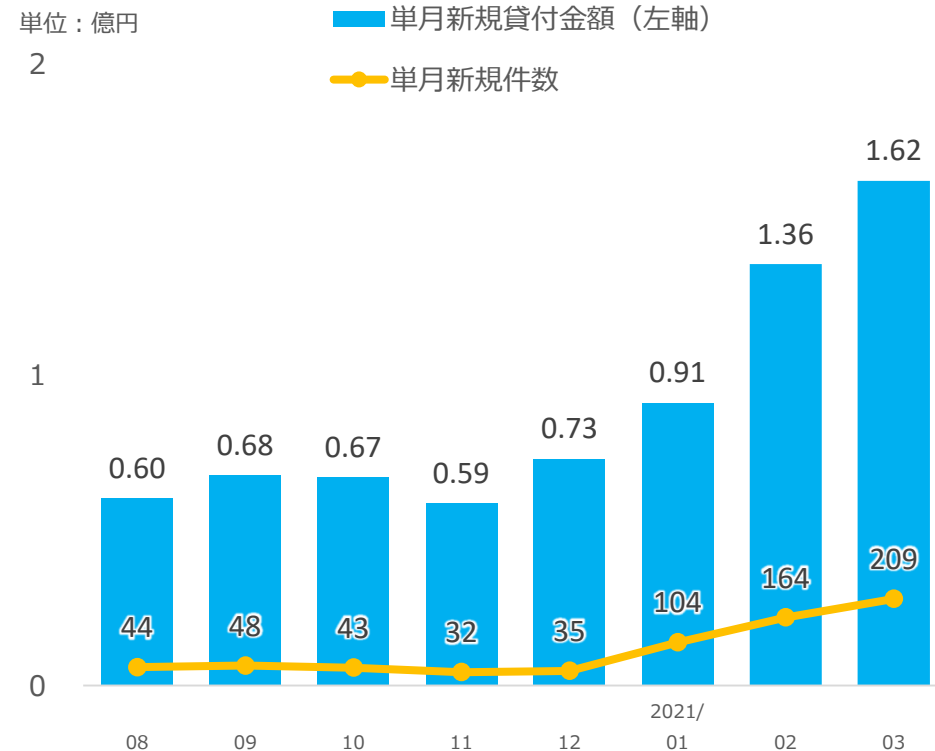
JTOの貸出残高および月次新規貸付の推移

- 経済消費指数は未だ回復が見られない中、デフォルト率の低い農機具ローンに注力、さらに過去に取引のあった優良顧客へのアプローチにより慎重な与信を実施した中古車ローンを再開
- 市場を鑑み、今後の新たな商品として住宅割賦（不動産ローン）について研究・準備中

JTO貸出資産残高の推移



JTO新規貸付件数および金額の推移



※数値は現地通貨に3月末レートを乗じて表示

参考レート：1 IDR = 0.0077円

農機具ローン残高の推移

- 日本が誇る「KUBOTA」「YANMAR」「ISEKI」ブランドのクオリティの高い農機具をインドネシアに普及させ、農家の生産性向上に貢献
- 農機具ローンはパンデミックの影響をほぼ受けず、新規貸付の減少や損失もなく安定して推移

2019年4Q～2020年4Qの事業分野別成長率



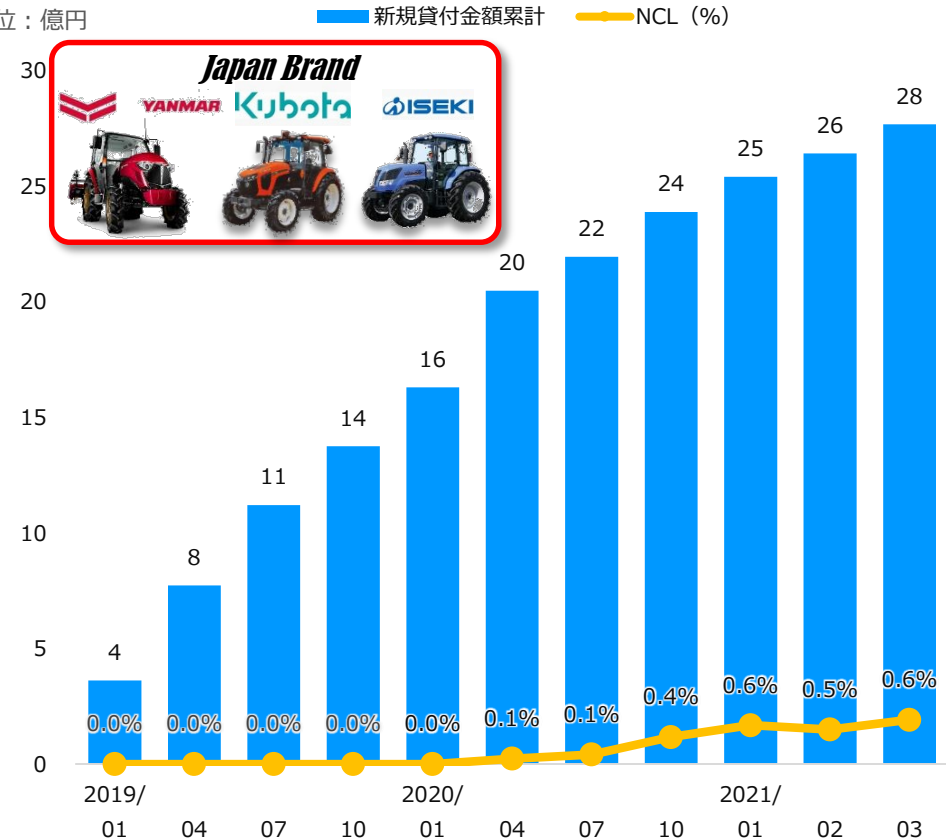
出典：the statistic of Indonesian economy 2020 vs 2019

※数値は現地通貨に3月末レートを乗じて表示

参考レート：1 IDR = 0.0077円

農機具ローンの新規貸出累計額とネットクレジットロスの推移

単位：億円

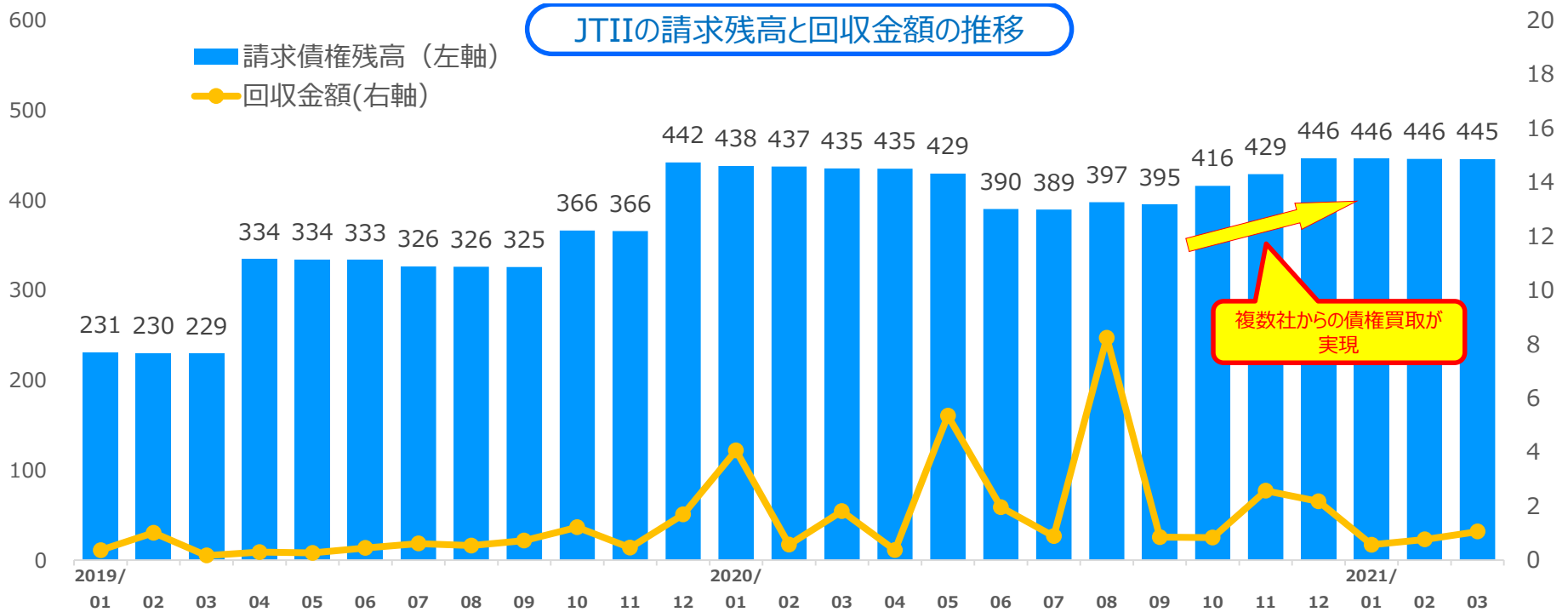


不良債権買取回収事業

- JTIIは昨年、過去最高の回収を実現させ、期中請求債権残高が減少するも、秋口以降複数社から債権の買取が実現
- コロナの影響を受け、現在も多数の金融機関より債権買取の打診あり、ビジネスの拡大を見込む
- 債権買取回収の分野で韓国にて実績と知名度があるTAAの子会社ターンアラウンドアセットインドネシアが韓国系金融機関から債権を購入し本格始動。まずは韓国系金融機関からの債権買取を中心に展開予定

単位：億円

単位：億円



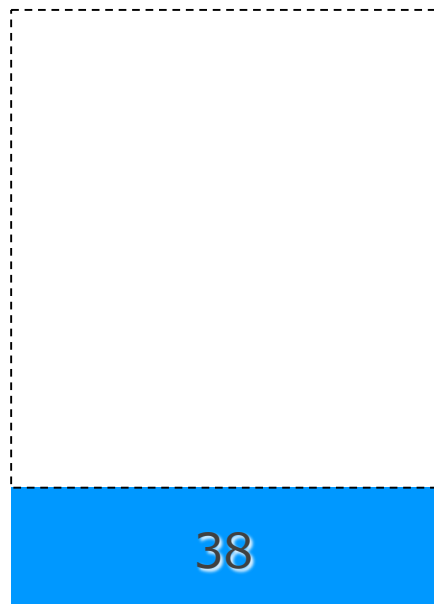
東南アジア金融事業における1Q進捗率

➤ 通期計画-43億円に対して1Qの営業損益は-5億円で着地

営業収益

通期計画 189

実績値 38

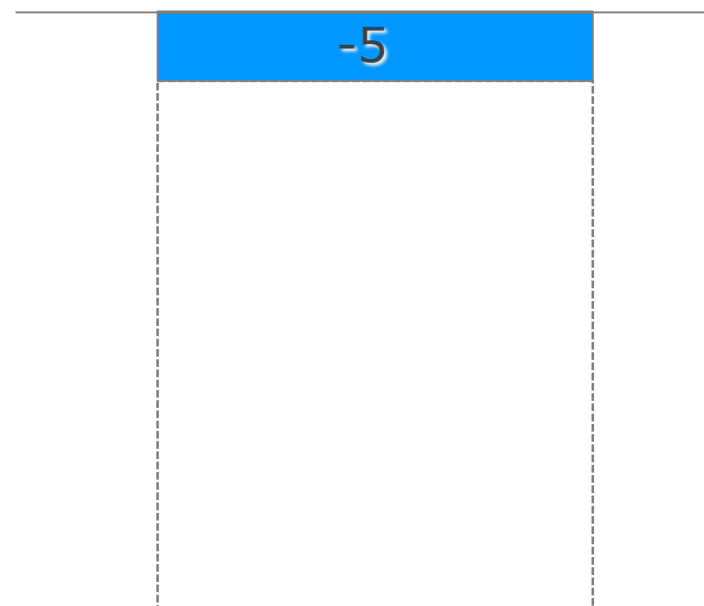


1Q FY12/2021

営業損益

通期計画 -43億円

実績値 -5億円



1Q FY12/2021

単位：億円

進捗率
20%

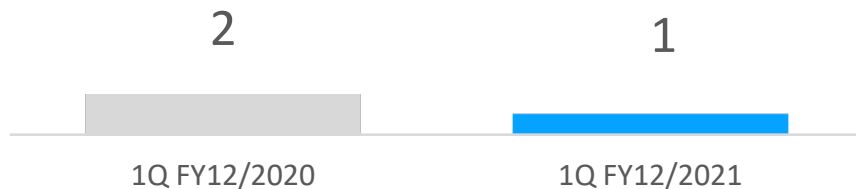
3. 2021年12月期第1四半期 セグメント別業績

3－4. 投資事業

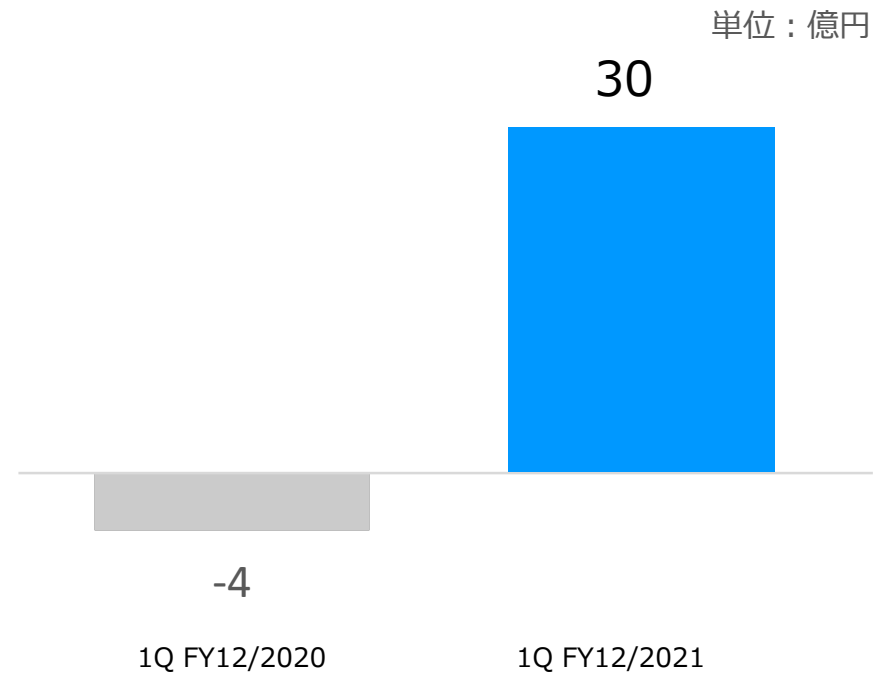
投資事業の営業収益と営業損益

- シンガポール控訴裁判所判決の一部履行として受領した37百万米ドルを2021年12月期1Qに計上
- Group Lease Holdingsより2021年4月7日に受領した17百万米ドルおよび4月29日に受領した7.2百万米ドルは2Qに計上予定

営業収益



営業損益



投資事業における1Q進捗率

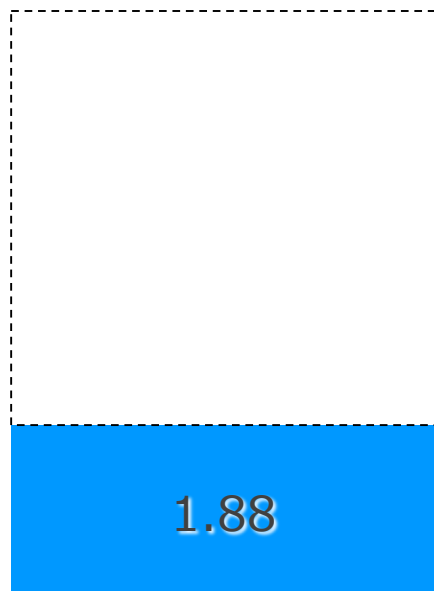
➤ 修正後通期計画に対する1Q進捗率は営業収益が29%、営業利益は57%

営業収益

通期計画 6.46

実績値 1.88

単位：億円



1Q FY12/2021

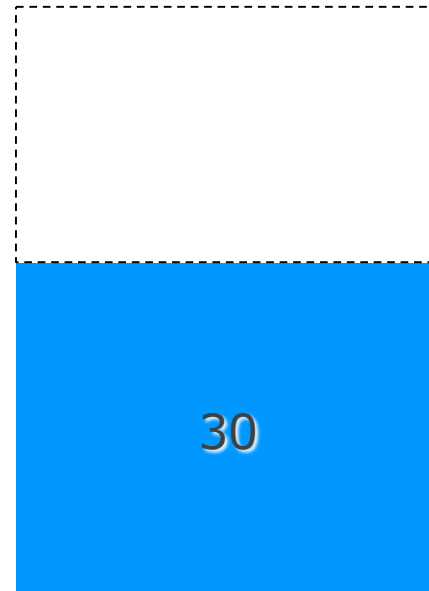
**進捗率
29%**

営業利益

通期計画 53

実績値 30

単位：億円



1Q FY12/2021

**進捗率
57%**

4. 2021年12月期修正連結業績進捗率

2021年12月期1Qにおける通期計画に対する進捗率

- 修正後通期計画には1Qの営業利益において日本金融事業および東南アジア金融事業が計画を上振れて進捗しているが、修正後通期計画には未反映
- 営業収益・各利益項目ともに修正通期計画に対して順調に進捗

	1Q FY12/2021 実績	FY12/2021 修正後通期予想	進捗率 (修正後通期予想比)
営業収益	108億円	421億円	26%
営業利益	44億円	55億円	80%
税引前利益	62億円	82億円	75%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	28億円	20億円	141%

